

公益社団法人 日本オーケストラ連盟
平成 27 年 (2015 年) 度 事業報告

第 4 期 平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

1. 交響楽に関する調査研究及び資料、情報の収集

(1) 「日本のプロフェッショナル・オーケストラ年鑑 2015」を刊行した。

文化庁委託事業「平成 27 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」として、3,000 冊刊行。音楽関連機関、専門家等に配布したほか、全国の主たる図書館、大学、公立文化施設などに配布した。併せて連盟ホームページでも公開した。

(2) 各種レポートを発行した。

文化庁受託事業「戦略的芸術文化創造推進事業」の中で実施した、シンポジウムの報告書を発行した。

(3) ステージスタッフ会議、ライブラリアン会議を開催した。

① ステージスタッフ会議 8 月 12 日 (水)、13 日 (木) の 2 日間仙台の日立システムズホール 仙台・エッグホールで開催した。加盟楽団の他、全国の主要ホールの舞台担当者も参加し、最近のデジタル機器の問題点、LED 照明について、情報交換をし、今後の対応策について討議した。併せて仙台フィルの練習会場・楽器保管場所でもある同ホール附属施設の視察を行った。

② ライブラリアン会議 8 月 31 日 (月) 名古屋市音楽プラザで開催した。

下記の議題に関して、有意義な議論を展開した。

新規に購入した楽譜を使えるようにする作業について。海外公演の現地でのライブラリアンの仕事について。ライブラリー業務上の困った点等についても情報交換を行った。

会議には加盟楽団の他、出版社等の担当者も出席し、オーケストラの楽譜に関する唯一の会議となっている。

(4) 基礎資料作成の調査・検討を実施した。

①平成 26 年度の加盟オーケストラの実績を調査し、活動実績を分かりやすくまとめ、ホームページ等で公表した。

②「子供のためのオーケストラ検証」プロジェクトを実施した。神奈川フィル、仙台フィル、東京交響楽団、東京都交響楽団、東京フィルで行われた、音楽鑑賞教室等でアンケート調査を実施、体験した児童、生徒の生の声を数値化した。この年度はサンプル収集までとし、分析は次年度に実施することになった。

2. 交響楽振興のための公演及び講習会等の開催

(1) 「オーケストラの日 2016」のイベントを実施した。

オーケストラの普及、浸透を図るため3月31日を「オーケストラの日」として、この日を中心にその前後で加盟するオーケストラが多彩な催しを行った。

①地方オーケストラは20の楽団が室内楽を含め、独自の演奏会を実施、約1万5千人弱の聴衆がオーケストラの演奏等に触れた。

②首都圏では12楽団が共同で、文京シビックホールで開催した。演奏会は12楽団選抜の「オーケストラの日祝祭管弦楽団」を編成し、指揮：川瀬賢太郎、ヴァイオリン独奏：レイ・チェンで行った。

ロビーでは各楽団がブースを出展したほか、小ホールでは東京シティフィル、東京交響楽団、東京ニューシティのそれぞれの楽員による室内楽が無料で行われた。

共催／文京シビックホール（公益財団法人文京アカデミー）

助成／私的録音補償金管理協会、公益財団法人ロームミュージックファンデーション

協力／日本音楽財団（日本財団助成事業）、株式会社ヤマハミュージックジャパン

延総入場者数 約3,200名

(2) 文化庁からの委託による「アジア オーケストラ ウィーク 2015」を制作した。

文化庁芸術祭主催公演として14回目の実施となる。この年度は前年の日中韓文化担当大臣会議で採択された、3か国の文化交流を促進するアピールを受け、中国国家交響楽団、韓国のテジョン市立交響楽団の2楽団を招聘した。日本のホスト・オーケストラは大阪交響楽団が務めた。この事業により日中韓3か国の文化交流を促進した。

会場：東京オペラシティコンサートホール

10月5日（月）中国国家交響楽団（中国）

10月6日（火）テジョン市立交響楽団（韓国）

10月7日（水）大阪交響楽団

会場：北上市文化交流センター（さくらホール）（岩手県）

10月8日（木）大阪響・テジョン市立響 合同演奏会

*7日にテジョン響アンサンブルによるアウトリーチを大槌町で行った。

入場者数：東京公演 5日 997名

6日 912名

7日 1,188名

北上公演 8日 600名 総入場者数 3,697名

(3) 国際交流基金平成27年度文化協力／ASEAN オーケストラ支援事業を実施した。

①フィリピンのマニラシンフォニー、フィリピン・フィル、からそれぞれ2名のオーケストラスタッフを招聘し、加盟オーケストラで研修を実施した。

期間／10月5日～10月16日（マニラシンフォニー）

11月14日～11月23日（フィリピン・フィル）

研修先／九州交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、大坂フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京交

響楽団、日本オーケストラ連盟

②2年目となるタイのバンコク交響楽団にはヴァイオリン奏者、コントラバス奏者の2名。

フィリピンのフィリピン・フィルをメインにマニラ響での活動も含め、クラリネット奏者、トロンボーン奏者の2名。計4名の経験豊かな専門家を11月から1年間派遣した。(バンコク響へのヴァイオリン奏者は1月から1年間)

(4) 文化庁からの委託による「戦略的芸術文化創造推進事業」を実施した。

「世界における我が国オーケストラのポジション」の検証を、欧米で活躍する音楽評論家、音楽ジャーナリスト4名を招き検証した。

期間／平成28年1月15日から1月25日

実施楽団／新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団

(5) 講習会、セミナー等の開催

①平成28年1月20日(水) 会場：政策研究大学院大学「想海樓ホール」

「世界における我が国オーケストラのポジション」の検証の為に来日した、音楽評論家、音楽ジャーナリスト4名と沼野雄司をパネリストに2部構成でシンポジウムを開催した。

②東京：平成28年1月29日(金) 会場：国際交流基金「さくらホール」

大阪：平成28年2月9日(火) 会場：日本センチュリー「オーケストラハウス」

「ASEAN オーケストラ支援事業」でバンコクに派遣されていた第一期生3名の帰国報告会を開催した。

(6) インターンシップの推進

連盟が窓口となり、音楽大学、一般大学のアートマネジメントに関心のある学生を公募し、受け入れ可能な加盟オーケストラで研修を実施した。

応募人数／8名のうち、7名が参加。受け入れオーケストラ7楽団

実施期間／7月から10月の間に1名あたり1週間程度の研修を実施。

(7) その他の活動

①日本音楽芸術マネジメント学会への参加

音楽芸術の振興や保護に係わるマネジメントや教育、政策に関する研究の推進のため参加した。

②アフィニス文化財団が開催する「アフィニス夏の音楽祭」に協力した。

8月16日(日)～25日(火) 広島

ホスト・オーケストラ：広島交響楽団

3. 青少年に対する交響楽の普及

(1) 東日本大震災復興支援

2月8日(月)9日(火) 岩手県大槌町他
東京交響楽団のメンバーによるホルン四重奏による室内楽

(2) 東京都が主催する「子供たちと芸術家の出会う街」の制作に協力した

2016年(平成28年)3月27日(日) 東京芸術劇場

企画・演奏 : 新日本フィルハーモニー交響楽団

事前アウトリーチ 参加人数 : 1,338名

当日ワークショップ 参加人数 : 473名(無料イベント参加者含)

オーケストラ演奏会 参加人数 : 3,406名(2回公演)

4. 交響楽に関する国際交流

(1) 海外のオーケストラ連盟等との交流と情報交換

①「アジア オーケストラ ウィーク」に招聘した中国国家交響楽団、テジョン市立交響楽団と現地での打ち合わせを行い、アートセンター等音楽関係者と情報交換等を実施した。

4月7日～4月8日 中国 北京市

5月14日～5月16日 韓国 テジョン市

6月24日～6月26日 中国 北京市

②「国際交流基金 ASEAN オーケストラ支援事業」を実施するため、タイ、フィリピンでのオーケストラ活動を調査し、情報交換を実施した。

4月20日～4月25日 タイ バンコク市

フィリピン マニラ市

6月2日～6月4日 フィリピン マニラ市

(2) アジア・太平洋地域オーケストラ連盟 第11回オーケストラ・サミット開催のための準備会の設置

日程、会場の確保等理事会メンバーに諮り、2016年10月5日～7日の3日間、東京オペラシティリサイタルホールでの開催が決定した。

5. その他目的を達成するために必要な事業

(1) 「日本オーケストラ連盟ニュース」を発行した。 年3回

オーケストラに関するニュース、トピックスや各種情報などを伝えるほか加盟するオーケストラの主催公演を一覧にしてコンサートガイドの役割も果たし、単なる機関紙としてではなく調査、資料収集等で得られた知見、情報も掲載した。

7月第90号、12月第91号、3月第92号 発行部数 各9,000部

(2) 「日本オーケストラ連盟」のホームページを更新した。

ホームページ開設から12年が経過し、利便性を図るため、ページの構成を一新した。

当初予定していた、アジア・太平洋オーケストラ連盟の英文によるページ開設は次年度に持ち越しとなった。

(3) 「日本のオーケストラ」を作成した。

年鑑に掲載したオーケストラの収入構造、支出構造をわかり易く表示し、支援依頼等に活用できるパンフレットを4,000部作成。加盟オーケストラが有効に利用した。

(4) 政府、国会への働きかけ

- ①実演芸術団体の理念に沿った自主的な活動を助成する助成制度に改革する活動を文化芸術推進フォーラムの一員として行った。
- ②文化芸術の振興を国家戦略の基本に位置づけ「文化芸術立国」の実現に向けて「文化省」の創設を求める活動を実施した。
- ③新公益法人制度について関係団体と協力し、一部改正を求める活動を実施した。
- ④税制改正の要望を関係団体と協力し行った。

(5) 他の実演芸術団体等との連携を深め、関係機関に働きかけた。

芸術家会議、日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、文化芸術推進フォーラムの一員として他の芸術団体や「劇場・音楽堂等協議会」などとも連携を図り、健全な文化芸術活動やオーケストラ運営ができる環境整備と充実に努めた。

(6) その他

実演芸術の価値と魅力をより多彩に発信されるよう、新聞、放送などをはじめとする各種マスメディアの活用にも努めた。また、クラシック音楽に関する基礎的な質問に対応し、普及にも努めた。

6. その他の事業（相互扶助等事業）

(1) 著作権代行事業

一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）との協定による、加盟オーケストラの使用する管理著作物の包括的申請と使用料の一括徴収と支払業務を実施した。

(2) 共同広告事業

朝日新聞「音楽情報」欄へ加盟会員が出稿する広告の料金の一括徴収と支払業務を行う事業だが、この年度の広告出稿は無かった。

(3) 互助会事業

病気や怪我で3ヶ月以上活躍できない加盟会員に所属する楽員、職員へ無利息での貸付制度による互助事業だが、この年度の利用者は無かった。

<会議の開催>

○理事会 平成27年度 計5回

- 第1回 5月11日(月) (決議の省略による)
- 第2回 6月1日(月) (東京)NHK青山荘
- 第3回 7月21日(火) (決議の省略による)
- 第4回 11月27日(金) (決議の省略による)
- 第5回 3月22日(火) (東京)NHK青山荘

○総会 平成27年度 計4回

- 臨時総会 5月29日(金) (決議の省略による)
- 定時総会 6月16日(火) (東京)NHK青山荘
- 臨時総会 8月29日(土) (決議の省略による)
- 臨時総会 12月18日(金) (決議の省略による)

○運営委員会 第189回 ~ 第197回、計9回

- 4月21日(火)、5月18日(月)、7月13日(月)、9月10日(木)、
- 10月27日(火)、11月24日(火)、12月16日(水)、
- 1月28日(木) (*運営委員会及び首都圏連絡会合同会議)、2月22日(月)

運営委員(12名):

- 杉浦 晃 NHK交響楽団 常務理事(10月15日逝去)
- 森 茂雄 NHK交響楽団 常務理事(12月18日就任)
- 朝倉 祥子 関西フィルハーモニー管弦楽団 事務局長
- 田邊 悌二 九州交響楽団 専務理事(6月30日辞任)
- 児島 廣政 九州交響楽団 専務理事(8月29日就任)
- 村上 満志 仙台フィルハーモニー管弦楽団 常務理事・演奏事業部長
- 大野 順二 東京交響楽団 専務理事・楽団長
- 益満 行裕 日本フィルハーモニー交響楽団 企画・制作部長(9月末辞任)
- 後藤 朋俊 日本フィルハーモニー交響楽団 常務理事・事務長(10月就任)
- 横守 稔久 兵庫芸術文化センター管弦楽団 プロデューサー
- 斎藤 正志 山形交響楽団 専務理事(3月31日辞任)
- 西濱 秀樹 山形交響楽団 専務理事(5月29日就任)

その他の出席者

理事長/児玉幸治、副理事長/金山茂人、専務理事/吉井實行、常務理事・事務局長/桑原 浩

○地方オーケストラ連絡会/首都圏オーケストラ連絡会「合同会議」 計1回

- 8月20日(木)、21日(金) (広島) 広島国際会議場

○首都圏オーケストラ連絡会 第388回 ~ 第396回 計9回

- 4月27日(月)、5月21日(木)、7月16日(木)、9月24日(木)、10月22日(木)、
- 11月17日(火)、12月18日(金)、1月29日(木) (*運営委員会及び首都圏連絡会合同会議)、
- 2月26日(金)

○地方オーケストラ連絡会 計2回

8月21日(金) 広島、2月9日(火) 10日(水) 大阪

○首都圏「オーケストラの日」実行委員会 計8回

9月18日(木)、10月15日(水)、11月14日(金)、12月4日(木)、
1月22日(木)、2月16日(月)、3月13日(金)、3月26日(木)

○「子供のためのオーケストラ検証」プロジェクト委員会の開催 計6回

4月27日(月)、5月21日(木)、8月25日(火)、10月26日(月)、1月28日(木)、
3月2日(水)

<外部の委員会・協議会等への協力>

- 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(以下、「芸団協」)の監事として金山茂人/副理事長が参加した。
- 公益社団法人日本演奏連盟常任理事として吉井実行/専務理事が参加した。
- 芸術家会議の常任幹事として桑原 浩/常務理事・事務局長が参加した。
- 芸団協「実演芸術振興委員会」委員として桑原浩/常務理事・事務局長が参加した。
- 公益財団法人公益法人協会評議員として吉井実行/専務理事が参加した。
- 「文化芸術推進フォーラム」運営委員として桑原浩/常務理事・事務局長が参加した。
- 公益財団法人アフィニス文化財団の理事として桑原浩/常務理事・事務局長が参加した。
- ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭の実行委員として
児玉幸治/理事長が参加した。
- 「日本管打楽器コンクール」運営副委員長として吉井実行/専務理事が参加した。
- 演奏家権利処理合同機構(MPN)の「クラシック委員会」委員として工藤真実/東京フィルハーモニー交響楽団常務理事・事務局長、吉井実行/専務理事が参加した。
- 一般財団法人民主音楽協会 2015年第17回東京国際音楽コンクール<指揮>
実行委員として桑原 浩/常務理事・事務局長が参加した。
- 一般社団法人日本クラシック音楽事業協会「クラシック・コンサート・マネジメント」に関する調査研究委員として桑原浩/常務理事・事務局長が参加した。
- アジア・太平洋地域オーケストラ連盟の事務局長を名倉真紀/マネジャーが務めた。

<関係団体との連携、協力>

芸団協、芸術家会議、文化芸術推進フォーラム、日本音楽芸術マネジメント学会、公益財団法人公益法人協会の会員、構成団体として参加している。

庶務の概要

1. 会員に関する事項

正会員	準会員	賛助会員	名誉会員
25	8	法人 13 個人 0	0

2. 会長及び役員に関する事項

役 名	氏 名	現 職
名誉会長	長岡 實	公益財団法人 資本市場研究会 顧問
理 事 長	児玉 幸治	一般財団法人 機械システム振興協会 会長
副理事長	金山 茂人	公益社団法人 日本演奏連盟 専務理事
専務理事	吉井 實行	兼 職員（前・事務局長）
常務理事	桑原 浩	兼 事務局長
理 事	上島 重二	三井物産株式会社 元・会長
	布垣 直昭	トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部 部長
	曾野 綾子	作 家
	西村 朗	作曲家
	松尾 康二	カルビー株式会社 相談役
	山口 学	公益財団法人アフィニス文化財団 専務理事・事務局長
	吉村 融	政策研究大学院大学 名誉学長
	森 茂雄	NHK交響楽団 常務理事
	濱橋 元	関西フィルハーモニー管弦楽団 専務理事
	児島 廣政	九州交響楽団 専務理事
	佐藤 吉正	仙台フィルハーモニー管弦楽団 専務理事
	大野 順二	東京交響楽団 専務理事・楽団長
	平井 俊邦	日本フィルハーモニー交響楽団 理事長
	近藤 史夫	兵庫芸術文化センター管弦楽団 楽団部長
西濱 秀樹	山形交響楽団 専務理事	
監 事	酒井 規勝	公認会計士
	支倉二二男	前・常務理事
顧 問	岡山 尚幹	元・常務理事
	田邊 稔	前・副理事長
参 与	内田 剛弘	弁護士
	加納 民夫	元・理事・事務局長

2016年3月31日現在

平成 27 年度事業報告書の附属明細書

平成 27 年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。